

秋の雑草どう防ぐ？

発生時期に合わせた除草剤の選定が成功のカギ

秋に発生する主な雑草

雑草対策は秋が勝負です。

秋の雑草をしっかり押さえてワンランク上のフェアウェイ、ラフにしましょう。

秋の雑草に有効な除草剤

 **スペクタクル®**
フロアブル

 **ティアラ®**
フロアブル

 **トリビュート®**
OD

 **デスティニー®**
WDG

イネ科雑草



一年生広葉雑草



多年生広葉雑草



秋の土壌処理剤が効かないときはどうする？

秋の土壌処理剤が効かない原因

しつこい秋の雑草ですが、土壌処理剤を使ってもなかなか効果が現れない場合、下記のような原因があるかもしれません。今一度、薬量や散布方法、薬剤の種類等に誤りがないかチェックしてみましょう。

薬量不足

登録薬量に幅がある場合、最低薬量よりも最高薬量で効果はより安定します。

水量不足

散布水量が少ないと、処理層が十分にできない場合があります。一般的には、散布水量 200mL/m² 以上が推奨されています。

不適切な薬剤選定

問題となっている雑草に対して、効果の弱い除草剤を選択している場合があります。

散布時期の逸脱

雑草が既に発生しているにも関わらず、茎葉処理剤を混用していない場合があります。

散布ムラ

均一全面散布が、雑草防除の基本です。

散布前後の気象条件

散布前に乾燥状態が続き、土壌が過乾燥だと処理層が十分にできない場合があります。散布直後の降雨は、処理層ができる前に除草剤が流亡してしまい、薬剤の効果が発揮されません。

土壌条件

排水不良箇所では処理層ができにくいだけでなく、除草剤が薄くなってしまい効果が安定しません。

芝生の状態

芽数が少なく薄いターフは雑草が侵入しやすくなります。適切な肥培管理、頻繁な刈込によって芝生の密度を上げることは最も効果的な雑草対策になります。

Envuがおすすめする秋の雑草対策

雑草発生前

スペクタクルフロアブル
0.025~0.03mL/m²

散布水量
200~300mL/m²



時期や雑草の発生状況にあわせて、
薬剤を適切な方法で使用しましょう

スズメノカタビラ発生初期（初秋～中秋）

スペクタクルフロアブル
0.025mL/m²

+

ティアラフロアブル
0.2mL/m²

散布水量
200mL/m²

展着剤を加用

スズメノカタビラ生育期（晩秋）

スペクタクルフロアブル
0.02mL/m²

+

トリビュートOD
0.15~0.2mL/m²

散布水量
200mL/m²

展着剤を加用

広葉雑草が目立つ場合

スペクタクルフロアブル
0.025mL/m²

+

デスティニーWDG
0.02mg/m²

散布水量
200mL/m²

展着剤を加用